

平成 22 年度授業評価等実施状況調査結果

1. 授業評価

(1) 実施状況

別紙「平成 22 年度授業評価実施状況一覧」のとおり。

(2) 実施組織

教養教育科目

| 部局名 | 大学側 | 学生側 |
|-------------|----------------------------|-----|
| 大学教育・学生支援機構 | 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部 | なし |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | 大学側 | 学生側 |
|-------------|-----------------------------|-------------------|
| 教育学部、教育学研究科 | 教育学部教務委員会 | なし |
| 社会情報学部 | FD 推進専門委員会 | なし |
| 医学部医学科 | 医学科教務部会 | 学友会授業向上委員会 |
| 医学部保健学科 | 保健学科教育課程専門委員会 | 保健学科学友会 |
| 医学系研究科 | 教育研究センター運営委員会 医科学専攻教務委員会 | なし |
| 工学部、工学研究科 | 評価委員会委員 | 授業改善ワーキンググループ学生委員 |

(3) 実施方法

教養教育科目

| 部局名 | 実施方法 |
|-------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | <p>1. 分野別科目・情報処理</p> <p>(1) 年度当初に実施科目を大学教育センター運営委員会で選定（22年度は分野別科目、情報処理）</p> <p>(2) 開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。</p> <p>(3) 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p> <p>2. 教養教育全体</p> <p>(1) 「教養教育全体アンケート」として教養教育科目履修学生全員にアンケート用紙配付</p> <p>(2) 配付方法：必修科目の授業時に配付・アンケート記入後に回収</p> <p>(3) 回収枚数：993 枚</p> <p>(4) 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p> |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | 実施方法 |
|-------------|-------------------------------------|
| 教育学部、教育学研究科 | 授業時に各教員がアンケート用紙を配布し、学生が回収し教務係に提出した。 |

| | |
|-----------|---|
| 社会情報学部 | <p>1. 各学期に開講されているすべての科目のアンケート用紙と回収用封筒を教員別に袋詰めしたものを総務係に用意し、各教員がそれを引き取る。</p> <p>2. 教員は、最終授業の終了 10 分前にアンケート用紙を配布し、学生の中から回収責任者 2 名を指名して退室する（回収責任者には、封筒に貼付されているマニュアル通りに回収作業を行うよう指示する）。</p> <p>3. 回収責任者は、アンケート用紙を回収した後、封筒に入れ、事務室に提出する。</p> |
| 医学部医学科 | <p>医学科の学生自治組織である学友会には授業向上委員会を設置している。本委員会が主体となり、各学年にアンケートを配布・回収し、集計されたものを教務部会に報告している。</p> |
| 医学部保健学科 | <p>別紙用紙により前・後期とも学外で行われる臨床実習等を除いて、全科目を対象としてアンケート調査を実施した。アンケート用紙の配布・回収は、学生の主体性を尊重するとともに、アンケートの記入内容の公正性確保の観点から学生が実施している。</p> |
| 医学系研究科 | <p>医学基礎技術実習については Basic 実習 4 科目を対象として実施、生命倫理公開セミナーについては 2 科目を対象として実施している。配布は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。</p> |
| 工学部、工学研究科 | <p>前期と後期に分けて、学部・大学院のうち、少なくとも 1 回は全教員が授業評価を受けることとした。学生側に各学科・専攻ごとにアンケート用紙の配布等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。なお、特別教育研究経費により、アンケートの集計作業に学内学生アルバイトを雇用した。各教員はアンケート結果について、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。</p> <p>また、これと並行して公開授業を行い、教員相互の授業評価も実施した。</p> |

(4) 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）

教養教育科目

| 部局名 | 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など） |
|-------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | <p>昨年度に引き続き実施した分野別科目（前期）では、履修者数が多く問題のあった人文分野で履修者数制限を実施したため、より深い内容、学生に即した授業、適切な教え方、教室環境で改善が見られた。</p> <p>分野別科目（後期）では、自然分野での改善が顕著であった。自然分野では、荒牧地区の授業題目数が 8 から 10 に増加した一方で、履修登録者総数が 2 割減少したことの影響が大きいように思われる。社会分野でも、授業題目数は 7 から 9 に増加したが、依然として平均履修登録者数は 116 名であり、顕著な改善はみられなかった。</p> <p>2 年間の授業評価結果をまとめると、平均履修者数が 120 名近くになると、その分野の授業の質が悪化する傾向にある。通年での平均履修登録者数が 110 名を超える社会分野では、開講数の増加がさらに必要ではないかと思われる。また、開講時限の分散化も引き続き、検討される必要がある。</p> <p>自由記述の内容からは、履修者数の制限には、学生にも賛否両論があることがわかる。90 名を超える程度の授業でも履修者が多いと感じる学生もおり、「希望した科目を選ぶことができた（質問 8）」への回</p> |

答もわずかに悪化したただけなので、現在の履修制限は、全体としては学生に受け入れられており、教養教育オリエンテーションで十分に周知したうえで、継続が望ましいものと考えられる。

また、後期では、医学科生の評価が高いことも特徴であった。

初めて実施した情報処理（前期）では、中期的課題として、習熟度別クラス編成の必要性が明らかになった。

情報処理（後期）は保健学科のみの開講である。学生のレベルに対して、やや高度な内容となっている可能性はあるが、前期開講の学部・学科と大きな差は認められなかった。

教養教育全体アンケートについて

1. 全体的傾向

22年度は、前年度より多少改善された項目が多く、一部の例外を除き、20年度を底に、教養教育全体としては、やや改善傾向にあるかと思われる。

2. カリキュラム・教え方・満足度

全体的には6割が「よかった」・「満足している」としているが、「とてもよかった」「大変満足している」とする者は依然として15%以下であり、改善の余地がある。

3. 窓口対応

22年度も引き続き改善されたが、「わるい」とする者は2割程度と減っており、原因を検討すべきかと思われる。

4. シラバス・配布物（履修手引・授業案内）

シラバスを「見なかった」と「ほとんど見なかった」をあわせて約4割となり、これらの者は、主に授業案内で履修題目を決めているものと思われる。「シラバスを何度も見た」者は1割以下で、半数は履修届提出時にだけシラバスを利用している。これに対し、履修手引・授業案内は、役に立っているようである。

シラバスに関しては活用する者がやや増えてきているが、配布物（履修手引・授業案内）が役立つ程度では5年間で大きな変化は見られない。

5. 科目区分ごと

科目区分では、「健康科学」「学修原論」「総合科目」「学部別科目」の順によかったとする者が多く、常に6割を超えている。「情報処理」「その他の外国語（必修学部）」も2年連続で6割を超えた。一方、「分野別（社会）」「英語」「分野別（人文）」では、よかったとする者は一度も6割に達していない。特に「分野別（社会）」は、22年度に、唯一悪化している。

6. 学部間の比較

全体的に見て、医学科生の評価が他学部生と比べて低く、満足していない者が25%を超えている。クラス指定で開講される「英語」「学部別科目」には、改善の余地があると思われる。また、社会情報学部では、どの科目区分でも「とてもよかった」とする者が少ない傾向にある。

専門教育科目（大学院科目を含む）

| | |
|-------------|--|
| 部局名 | 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など） |
| 教育学部、教育学研究科 | 上記の各点はいずれも良好であると判断できる。 |
| 社会情報学部 | 授業評価の結果に関しては、評価結果を各教員に返却し、各教員が授業の成果や効果を分析し、次年度の授業に反映させている。 また、「学部長と学生との懇談会」及び「研究科長と院生との懇談会」においては、履修方法についてやパソコン等の使用に関して、質問が寄せられ、各質問に対し、学部長、学科長、教務委員等が丁寧に応答し、学部生及び院生の理解を得ることができた。 |
| 医学部医学科 | 本集計結果については教務部会に報告され、例年実施しているFDにおいて公表し、今後の授業内容等の向上の参考としている。 学生主体のアンケートであるため、学生の自由な意見を拾い上げる形式となっており、より学生の本音が反映されたものである。これらをもとに、年2回の学友会との懇談会においても活発な意見交換が可能となっている。 |
| 医学部保健学科 | 平成22年度の授業評価結果は、前年度と同様、総合評価において5段階評価の又はが前後期ともに65%以上で、又はと評価したものは5%以下であった。学生の授業に対する満足度は、継続して高い水準を維持できていることが分かった。 その反面、学生の授業の出席率や積極性は高い（7～8割）が、予習・復習時間が前年度同様1時間未満であり、前年度と同様にその大半を占めており、予習復習の時間がかなり少ないことが判明した。 |
| 医学系研究科 | アンケートによるフィードバックは授業担当教員に行っており、授業の改善の一助となっている。 今後は、アンケート内容を審議・検討し、その結果を分析した上で、シラバス全体の向上に活かしていきたい。 |
| 工学部、工学研究科 | 数年来の授業評価アンケートの実施とその結果のフィードバックの成果もあり、全体的に学生の授業に対する参加度や満足度は高くなっている。理解度などは個々の学生で大きな開きがあり、学習意欲の低い学生のモチベーションを高めるような工夫が必要である。 |

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

教養教育科目

| 部局名 | 名称 | 実施月日 | 大学側参加者数 | 学生側参加者数 | 内容 |
|-------------|------------|----------|---------|---------|--------------|
| 大学教育・学生支援機構 | 学生と学長との懇談会 | H22.7.13 | 12 | 97 | 学生から意向・要望を聴取 |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | 名称 | 実施月日 | 大学側参加者数 | 学生側参加者数 | 内容 |
|-------------|--------------------|-----------|---------|---------|---------------------------------|
| 教育学部、教育学研究科 | 学部長との懇談会 | H22.12.22 | 15 | 40 | 学生生活、学習環境など |
| 社会情報学部 | 学部長と学生との懇談会 | H22.10.27 | 13 | 4 | 学生から意見・要望を聴取し、これに対する説明・確認を行う。 |
| | 研究科長と院生との懇談会 | H23.2.1 | 8 | 7 | 大学院生から意見・要望を聴取し、これに対する説明・確認を行う。 |
| 医学部医学科 | 学友会との懇談会 | H22.7.12 | 17 | 25 | 教育課程、施設等の要望事項聴取・意見交換 |
| | 学友会との懇談会 | H23.2.7 | 16 | 24 | " |
| 医学部保健学科 | 学友会との懇談会 | H22.6.23 | 19 | 14 | 教育課程、施設等の要望事項聴取・意見交換 |
| | 学友会との懇談会 | H22.12.22 | 16 | 12 | " |
| 工学部・工学研究科 | 学生との懇談会(情報工学) | H22.5.26 | 1 | 4 | 前期と後期の評価対象となる科目の選定 |
| | 学生との懇談会(応用化学・生物化学) | H22.6.11 | 6 | 35 | 授業評価アンケートの結果等についての懇談 |
| | 学生との懇談会(情報工学) | H22.9.24 | 1 | 1 | " |
| | 学生との懇談会(機械システム工学) | H22.10.14 | 4 | 7 | " |
| | 学生との懇談会(応用化学・生物化学) | H22.11.30 | 5 | 30 | " |

| | | | | | |
|--|---------------------|-----------|---|----|----------------------|
| | 学生との懇談会(社会環境デザイン工学) | H22.12.22 | 5 | 2 | " |
| | 学生との懇談会(電気電子工学) | H23.1.19 | 1 | 3 | " |
| | 学生との懇談会(生産システム工学) | H23.1.20 | 4 | 11 | 太田キャンパスでの生活全般に対する懇談会 |

(2) 懇談会での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例
教養教育科目

| 部局名 | 懇談会での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例 |
|-------------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | <ul style="list-style-type: none"> 「昭和キャンパスにおけるカード式コピー機の夜間開放」という意見に対し、生協において図書館医学分館に設置されている現金方式コピー機と交換することの検討を開始した。 昭和キャンパス図書館を、1年生へも夜間利用可能とした。 荒牧キャンパスの西門通用門を毎日6:00～22:00まで開けることとした。 |

専門教育科目(大学院科目を含む)

| 部局名 | 懇談会での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例 |
|-------------|--|
| 教育学部、教育学研究科 | 転出した教員の後任者を直ちに採用できない場合に、開設できない授業が生じることによって学生に不利益が発生することのないよう求める意見があり、従来も可能な限りの対策をとってきたところであるが、あらためて各講座にその旨を周知徹底した。 |
| 社会情報学部 | 教育の質の向上を目指し、FD公開授業ではアンケートを課して、授業の参考としている。また、授業後の懇談会では、教員同士が問題点や評すべき点を出し合って、授業の反省材料としている。さらに、学生から聴取した意見を踏まえ、履修の手引きをより分かりやすく修正した。 |
| 医学部医学科 | 懇談会では非常に活発な意見交換が実施された。内容的には授業のカリキュラム改正を願うものが多かったが、諸般の事情が絡み合い、実際にはほとんどカリキュラム改正はできないということが確認された。施設の改修を望む声も多かったが、多くは「耐震改修」の際に併せて要求する予定であることが説明された。 |
| 医学部保健学科 | <p>第1回懇談会では、西棟改修工事に伴う仮教室への不満が大きかった。(後期授業開始前に改修工事終了)</p> <p>また、学生更衣用のロッカーが不足しているという不満が大きく、学務課予算と後援会費によりある程度の台数は更新したが、ロッカーを納める部屋の面積不足もあり、「1名に1ロッカースペース」の実現にはなかなか至らなかったのが現状である。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 工学部、工学研究科 | <ul style="list-style-type: none">・ 太田キャンパスの図書室の充実に対する要望に対して、特に実験・実習の担当教員がレポート作成に必要な本をリストアップ・購入することを約束した。・ 教室設備に関する意見では、教員からの施設管理係への設備改善依頼や、次年度の教室を変更することで対応した。・ 授業実施方法の改善に関する意見では、該当科目を担当した教員のリアクションペーパーにおいて改善する旨の回答がなされている。 |
|-----------|---|

3. F D活動

(1) 実施状況

教養教育科目

| 部局名 | 実施組織 | 名 称 | 実施月日 | 教員参加者数 | 内 容 |
|-------------|-------------------------|---|------------|--------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | 大学教育・学生支援機構 大学教育センター | 全学F D連続講演会「大学教育のグランドデザイン」 「学部教育から学士課程教育へ - 新潟大学の取組 - 」 | H22.7. 28 | 50 | 大学教育充実のため、学部・学科・専攻単位の教育から、学士を与える課程（プログラム）中心の教育に転換していく必要性が指摘されている。それに積極的に取り組んだ新潟大学の状況を、新潟大学濱口副学長に講演いただいた。 |
| | 大学教育・学生支援機構 大学教育センター | 全学F D連続講演会「大学教育のグランドデザイン」 「学士課程における英語教育プログラム」 | H22.11.12 | 30 | 群馬大学では、教養教育改革の一環として、英語教育の再構築を行うこととなっている。英語教育において先進的な取り組みをしている茨城大学の現状を、改革の中心におられる永井典子教授に講演いただいた。 |
| | 大学教育・学生支援機構 大学教育センター | ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業 | H22.5.7 | 63 | 各部局から推薦された最優秀賞候補者6名による公開模擬授業を、初めて昭和地区で実施した。 |
| | 大学教育・学生支援機構 大学教育センター | 教養教育ベストティーチャーによる公開模擬授業 | H22. 9. 30 | 20 | 従来、各学部に委託していた、教養教育ベストティーチャー優秀賞受賞者2名（勝部太教授、BarryKeith准教授）による公開模擬授業を実施した。 |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | 実施組織 | 名 称 | 実施月日 | 教員参加者数 | 内 容 |
|-------------|-------------|---------------------------------------|-----------|-------------------|---|
| 教育学部、教育学研究科 | 教育学部 | 特設の授業公開（前期） | H22.7.15 | 16 | 授業の参観及び授業研究会 |
| | 教育学部 | 特設の授業公開（後期） | H22.10.7 | 10 | 授業の参観及び授業研究会 |
| 社会情報学部 | F D 推進専門委員会 | 企業との懇談会 | H22.4.16 | 130 | 就活に関する講演会の実施 |
| | F D 推進専門委員会 | 公開授業 | H22.12.21 | 7 | 学部及び大学院の公開授業の実施 |
| | | | H23.1.17 | 9 | |
| | | | H23.1.20 | 11 | |
| H23.1.24 | | | 3 | | |
| F D 推進専門委員会 | 企業懇談会 | H23.2.16 | 59 | 企業の人事担当者による講演会の実施 | |
| 医学部医学科 | 医学科教務部会 | 医学教育教授法ワークショップ | H22.12.11 | 79 | 【第1部】 教員の教育業績評価について 【第2部】 共用試験C B T 問題作成ワーキングショップ |
| 医学部保健学科 | 教育課程専門委員会 | ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業 | H22.9.1 | 65 | ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業 |
| | 教育課程専門委員会 | 保健学教育ワークショップ | H23.3.2 | 73 | 保健学研究科の概要及び教育課程 |
| 医学系研究科 | 医科学専攻教務委員会 | 群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻 F D 兼成果報告会 | H23.2.16 | 77 | 研究医の増加を目指して |
| 工学部、工学研究科 | 工学部 | ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業 | H22.9.14 | 約 100 | ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業 |
| | 生産システム工学専攻 | 公開授業 | H23.1.27 | 5 | 学生の授業評価が高かった教員による公開授業を実施し、他の教員が聴講した。 |

(2) F D活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

教養教育科目

| 部局名 | F D活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例 |
|-------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | F D連続講演会に基づき、各学部のA P・C P・D Pの明確化が図られ、カリキュラムマップが作成され、今後、就業力育成支援事業等で活用される。また、授業頻度の倍増、習熟度別クラス編成の深化などの、英語教育の再構築が、平成 23 年度の工学部から実施される。 ベストティーチャー賞関連の公開模擬授業は、若手教員や優れた授業を行う教員への動機づけになっているものと思われる。 |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | F D活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例 |
|-------------|--|
| 教育学部、教育学研究科 | 対象となった授業の特長を確認し、参加教員が各自の授業に適した形でそれを採り入れた。 |
| 社会情報学部 | F D推進専門委員会から各教員に、アンケート内容をよく吟味し、各科目の第 1 回授業の際に、「前年度の授業評価の結果を踏まえて、本年度はどの部分をどのように改善していくことになったのか」を伝えるよう依頼している。 |
| 医学部医学科 | 学友会授業向上委員会から選出された教員による模擬授業を行うことにより、学生にとってわかりやすい授業方法を参加教員に対し、認識・啓発することができ、その模擬授業に対するアンケートを実施することで、改善点等の再認識の一助になると考える。 また、今年度実施した「C B T問題作成ワーキングショップ」では、共用試験C B Tにおける良問とは何かを考え、グループワークすることで実際に作問をし、発表・討論することを通して情報を共有、認識することができた。 |
| 医学部保健学科 | 上記の実施状況に記載したとおり、「ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業」を実施して、各教員の授業方法・質の向上に努めている。今回の模擬授業では、単なる模擬授業とはせず、授業実施に当たってベストティーチャーが特に留意している授業の教授方法について、講義してもらおう形を取った。 また、保健学教育ワークショップでは、平成 2 3 年 4 月設置を予定している大学院保健学研究科の概要及び教育課程について、保健学科長及び大学院教務委員長から説明を行った。 |
| 医学系研究科 | 今年度は医学科を卒業して大学院に進学する学生の漸減傾向への方策を考えるという目的で、医科学専攻の平井宏和教授に「群馬大学出身の研究医を育てるにはどうすればよいのか?」、岡山大学大学院・医歯科学専攻長の松井秀樹教授に「A R Tプログラムによるシームレスな人材育成」というタイトルでご講演いただき、学部生対象のM D - P h Dコースをどのように改善すべきか、初期臨床研修期間も大学院生としての在籍年限に含めるかどうか、など具体的なポイントに関して活発な討議が行われた。来年度はこれらの問題に関して検討を進める予定である。 |
| 工学部、工学研究科 | 公開授業について、各教員が報告書を作成し、授業改善に活かしている。また、ベストティーチャーによる公開模擬授業も行い、各教員の授業方法の改善に役立てた。 |

4. その他特記事項

教養教育科目

| 部局名 | その他特記事項 |
|-------------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | 学外のFD講演会等に、大学教育センター関連の教職員を派遣しており、その成果が、本学の教育改善に役立っている。 |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | その他特記事項 |
|-------------|--|
| 教育学部、教育学研究科 | 特になし |
| 社会情報学部 | 学生が授業にどのように取り組んでいるかについても調査し（設問7～設問9）、各教員がその把握につとめている。 ベストティーチャー賞選考の根拠資料としている。 |
| 医学部医学科 | 特になし |
| 医学部保健学科 | 特になし |
| 医学系研究科 | 特になし |
| 工学部、工学研究科 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者からの奨学寄附金によりPCを10台購入し、機械システム工学実験におけるデータ処理を中心とした教育手法の改善を行った。 ・ 製図、レポート作成、グループ討論や少人数学習ができるリフレッシュルームを新たに開設した。 ・ 桐生化工会の援助を受けて、評価優秀教員の表彰を実施している。 ・ 工学基礎（桐生）の物理グループでは、スタッフが執筆した基礎物理学実験のテキストを学生に配布している。同実験の受講者に対して行われた授業評価アンケートに寄せられた回答を、毎年行うテキストの改定に反映している。 |

5. 根拠資料

教養教育科目

| 部局名 | 根拠資料 |
|-------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | 1. 全学FD連続講演会（H22.7.28）案内 2. 全学FD連続講演会（H22.11.12）案内 3. 平成22年度授業評価質問票（分野別） 4. 平成22年度授業評価質問票（情報処理） 5. 平成22年度教養教育アンケート用紙 6. 平成22年度前期授業評価集計表（分野別） 7. 平成22年度前期授業評価集計表（情報処理） 8. 平成22年度後期授業評価集計表（分野別） 9. 平成22年度後期授業評価集計表（情報処理） 10. 平成22年度教養教育アンケート集計表 11. 学生と学長との懇談会(教養教育)における意見・要望に対する回答について |

専門教育科目（大学院科目を含む）

| 部局名 | 根拠資料 |
|-------------|---|
| 教育学部、教育学研究科 | 1. アンケート用紙 2. 集計結果 3. 学生との懇談会資料 |
| 社会情報学部 | 1. アンケート用紙 2. 集計結果 |
| 医学部医学科 | 1. アンケート用紙 2. 学友会との懇談会（第1回）資料 3. 学友会との懇談会（第2回）資料 4. 平成22年度医学教育教授法ワークショップ次第 |
| 医学部保健学科 | 1. 学友会との懇談会（第1回）資料 2. 学友会との懇談会（第2回）資料 3. 平成22年度保健学教育ワークショップ資料 |
| 医学系研究科 | 1. 授業評価アンケート 回答等 2. FD兼成果報告会 次第 |
| 工学部、工学研究科 | 1. 授業評価アンケート用紙 2. 授業評価アンケート報告書 3. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業 |